

【平成 16 年度 専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

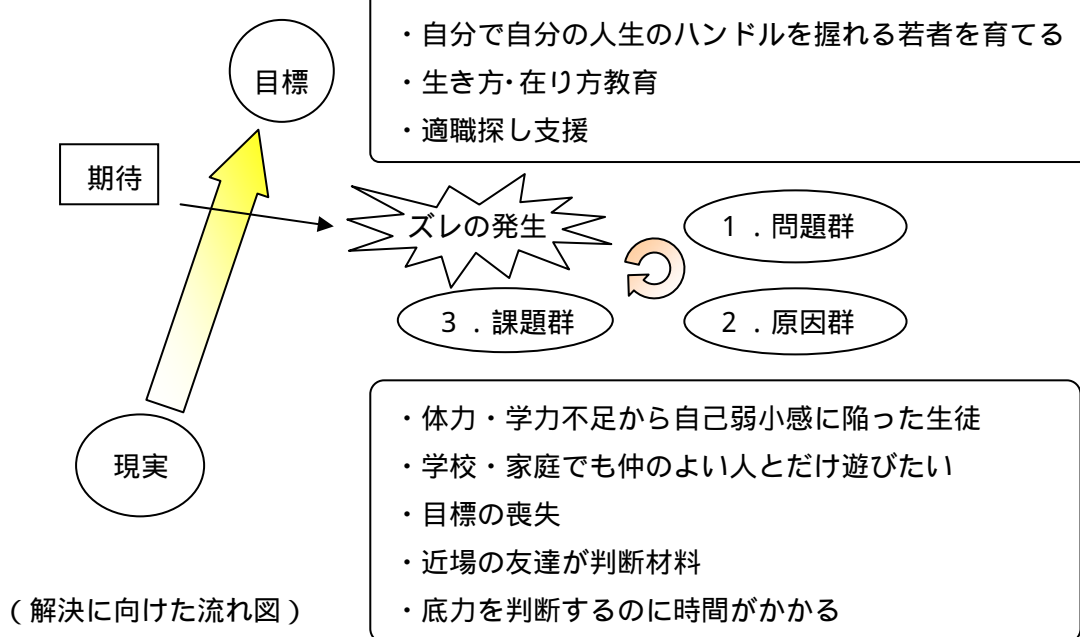
事業名	「高等専修学校におけるフリーター予備軍に対する職業意識の向上のためのプログラム開発」		
学校法人	学校法人鈴木学園		
学校名	厚木高等専修学校		
代表者	鈴木 トヨ	担当者・連絡先	渡邊 正行 ・学校 046(221)5678

< 事業の概要 >

この委託事業のプログラム開発は、高等専修学校生の実態を把握し、学習指導要領の縛りが弱く、個々人に柔軟に対応できる特質をいかし「生徒一人ひとりが職業意識を持って、ミスマッチのない職探しができる」ことを目指して貰いたいという思いからのスタートでした。

プログラムには、短期（1～2週間程度）ものと長期（LHR を活用した 1～3 年）ものを計画し、長期のものは仮説検証サイクルを回しきれず、十分な実証検分には至っていませんが、現場の諸先生には課題解決の一助になればと願っています。

< 成 果 >



1 . 問題群

- ・情報プライマリーデータ（アンケート調査：1743 名）
- ・個別インタビュー（厚木高等専修学校生：100 名）
- ・教育施設訪問（浜松、和歌山、名古屋）

2. 原因群

- 本人：無気力、無感動、無関心、コンプレックス、集団学習が苦手、心身症など。
如何に労力をかけずに利益と欲しいモノを手に入れるかが分かっている。
- 保護者：丸ごと受容の消滅、自分のことで精一杯、ゆとりがない、世間の目、親子関係不在、親から子供の機嫌取り。
親が経験していないことが現実問題として存在している。
- 学校：不本意入学をさせられたという意識。
従来型の学校ではもはや子供の成長を支えきれない現実。
選択肢が増えた（通信制、サポート校、フリースクールなど）。
- 環境：少子化。
崩れた基本生活習慣（食・遊・寝）。
消費主義的価値観。
快適環境の享受。
受身の生活行動が多くなってきたことで「自己本意」「忍耐感の欠如」「情操の欠如」が目立つ、できれば関わりたくないという風潮。
一つの事に真正面から取り組む姿に嫌悪感を示している。

3. 課題群：高等専修学校における「職業意識の向上に向けたプログラム開発」

- ・社会生活に必要なルールとマナーを身につける。
- ・「思いやり」と「協調性」。
- ・コミュニケーション能力。
- ・自学自習の習慣化。
- ・「自信」と「やる気」、取り組む姿勢。
- ・情報の正しい理解。
- ・高度情報化社会の生き方、在り方。
- ・時代の要請。

課題解決策とその結果：

短期（1～2週間程度）プログラム：「仕事」と「将来」のためのワークブック。

長期（LHRを活用した1～3年）プログラム。

を作成＋日本版デュアルシステムの実施、短期プログラムを実施検証し、この過程においては下記のことを重点指導項目としました。

従来の「出口指導」から「生き方教育」にシフトしたこと。

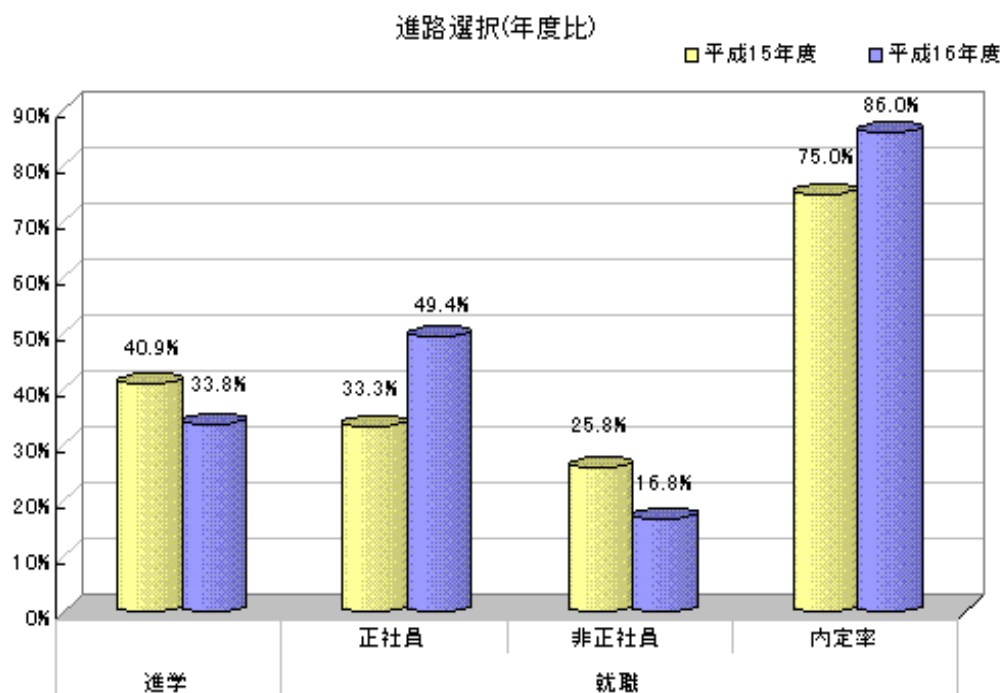
2年次3学期にデュアルシステムを実施、保護者対象の就職セミナーを開催したこと。

進路指導と担任指導の連携強化を促進したこと。

「フリーターの行く末について」説明したこと。

自分の持ち味（強みと弱み）は何か、人にアピールできるかについて説明したこと。
高等専修学校が一条校と同様、「ID パスワード」を入手したことから、求職活動に幅が出たことなどがあります。

この結果、一概に効果の有効性に言及するには早計（雇用関係の変化、もう少し時間を経たプログラムの実証検分が十分でない）かもしれませんが、成果として読み取れます（下図表から）。



まだ、長期プログラムの実証検分が不十分、コミュニケーション能力アップ、協力スタイルの理解、キャリア・カウンセリング能力などの問題も多く、若者をはじめとして、皆さんがもっと高等専修学校の持ち味をご理解していただくことと高度情報社会における職業教育についても検討課題をいただきました。

以上